



## 学校独自の教科「塩浜ふるさと防災科」を通して、地域と連携して防災意識の向上を目指した取り組み



千葉県 市川市立塩浜学園  
校長 松井 聡

### 1 はじめに

市川市立塩浜学園は、平成28年度に千葉県初の義務教育学校として開校しました。市川市教育振興基本計画の基本理念である「人をつなぐ 未来につなぐ 市川の教育」の具現化にむけて、小学校と中学校をつなぐ教育活動を展開しています。令和2年度に一体型の新校舎が完成し、コミュニティ・スクールとしても市内の先駆的な役割を果たしてきています。

### 2 取り組みの背景

市川市塩浜地区は、平成23年3月の東日本大震災で被災地となりました。液状化の影響で学校のグラウンドが沈下し、しばらく断水が続きました。学校のまわりの地域一帯も水のない生活を強いられ、特に高層住宅にお住まいの高齢者には、断水の問題は深刻でした。その際、当時の塩浜中学校の生徒たちが水運びボランティアなどで地域を支えました。自助・共助・公助により地域が復興したことで、地域の絆と学校の役割が再認識されることとなりました。そのような経験をもつ地区に新たに生まれることになった塩浜学園では、小中一貫校として、特色ある教科として学ぶべき内容が「ふるさと」と「防災」に整理され、「塩浜ふるさと防災科」という教科が生まれました。本教科は、前期課程3年生から後期課程9年生まで続き、探求型の授業を作り上げてきていて、教育課程の柱として位置づけられています。

### 3 実践内容

3・4年生では「ふるさと塩浜」について、5年生では、「防災」の導入の学習を行い、安全マップ作り、防災意識を高める手立て、共助の動きなどを学んでいます。6年生では、地域貢献について学び、7年生では、災害時に役立つことなどを調べています。これらを踏まえ、8・9年生では6つのゼミ（異学年での交流学习）において、それぞれのテーマを深めていく学習に取り組んでいます。新しい教科なので、積み上げ・蓄積が大事になりますが、計画・実践・報告の形式をシンプルにして、持続可能な取り組みにしています（右図参照：企画書と報告書）。

地域の方々には「塩浜ふるさと防災科」の講師として、東日本大震災当時の写真などの貴重な資料を提示していただきながら教えていただいています。学習成果は地域の文化祭に出品したり、まちかど健康サロン「ほっとスペース」に掲示したりしていただいています。また、

#### 【取り組みの様子★】



防災に関連した資格の取得



塩浜の防災（避難所運営）



自分たちで企画・運営する避難訓練



第5学年 塩浜ふるさと防災科学習活動企画書

1. 年間テーマ「塩浜とつながる！メッセンジャー」

**2. 年間目標(推進の重点的視点)**  
地域の人々と一緒に活動することを通して、少子高齢化や防災の課題について理解し、課題の解決に向けて適切な方法を選択して、仲間と協働的に活動したり、地域に貢献したりできるようにする。  
推進の視点【A・B・C・D】

3. 年間テーマについて

- (1) テーマ設定の理由  
・3・4年生では、花を植える活動や、塩浜にいる生き物を観察する活動に取り込んできており、そういった活動を通して、地域への愛着や関心を持った児童が育っている。  
・本校は東日本大震災の際に被災した地域であるため、5年生では防災についての学習を進める。  
・地域とつながることは防災になるということを知り、「つながる」をキーワードに地域の方と学校をつなぐために自分たちができることを考え、行動していくことを中心に学習を進めていきたい。  
(2) 児童の実態(男子17名、女子12名 計29名)  
○地域には多くの高齢者がいることや、自分より小さい子が多く生活していることにも比較的多くの児童が気づいており、地域への関心が高いことも確認される。  
○地域の役に立ちたい、地域のことをもっとよく知りたい、地域との関わりを深めたいなどといった、地域への意欲を持った児童が増えてきている。  
▲物事を順序立てて考えることや、自分の考えを言葉で表現することを考え、仲間と協力して課題の解決ができる児童を育てたい。  
▲塩浜ふるさと防災科でできた経緯や過去の塩浜の災害について知らない児童が多い。また、自分たちの記憶にないことについて防災への意欲が湧いてきている。  
(3) 教師の思いや願い・手立て(研究協議との関連)  
■「地域の役に立ちたい」「地域の居かしたい」と強い意欲を持たせ、切実感を持って活動できるようにしたい。  
-積極的に地域の人材や団体と関わりながら学習を進めていくことを手立てとして学習を進める。  
■人や地域とつながることの大切さを理解し、自分たちでできることを考え、仲間と協力して課題の解決ができる児童を育てたい。  
-自分たちのアイデアを形にすることができるよう、みどり10ゆかりなどの企業とも連携をして、講習会や交流会、学校を小グループに分けて自分のアイデアや考えが活かされる場を積極的に設けながら学習を進める。

4. 学びを深めるための素材(地域・学習)

- 【地域】**  
塩浜に住む人々、みどり10ゆかり  
**【学習】**  
自然災害を防ぐ(社会)  
自然災害の種類や災害に合わせた助救の方法について学び  
台風と防災/流れる水のほららきと土地の変化、(理科)  
台風や高潮などによる被害や備えについて学び  
がスタターを作ろう/知りたいことを決めて話を聞く/聞き分けを聞く(国語)  
目的や伝えたいことに合わせて、伝える方法を考えたり、必要な情報を集めたりすることができると。  
相互理解、尊重、寛容、互いの精神/よりよくいきる喜び(道徳)  
地域の人々のために進んで行動することができると。

5. 評価規準【Mブロック】

- A:人間としての生き方に向かう**  
・人や地域とつながることの大切さを理解している。(知識・技能)  
・人や地域とつながるための必要なことについて考え、表現することができると。  
・授業の中で、指を思いやりたり、地域に貢献しようとしたりしてきている。(態度・規範・表現)  
**B:地域への理解と尊重を深める**  
○ふるさとに住む人々の環境が抱える問題、地域で起こった過去の災害や、災害に対する地域の方の思いを理解している。(知識・技能)  
○調査して分かった地域の課題から、自分の課題を設定するとともに、課題解決の方法やその手順について考え、必要な情報を適切の方法で収集することができると。  
○地域の課題の解決に向け、異なる意見や価値の考えを受け入れ、協働的に課題を解決している。(学びに向かう力、人間性)  
**C:科学的理解を深める**  
・単科本講義で起こった状況を調査や、調査と理論の関連などといった授業や、その過程について理解している。(知識・技能)  
・他教科と関連させながら、災害の防災について考え、自分の取るべき対策などについて考えることができる。(態度・規範・表現)  
・他教科で身につけた力を活用し、課題を解決しようとしている。(学びに向かう力、人間性)  
**D:防災リテラシーを身につける**  
・塩浜で起こった災害を知り、起こりうる災害についての想定をすることができると。  
・災害発生を想定し、必要な対策について考えたり、人に伝えたりすることができる。  
・災害発生を想定し、自ら進んで課題の解決のために行動することができると。  
(学びに向かう力、人間性)

8. 年間活動計画 (総時数 68 時間)

- 第1期**  
塩浜とつながる！メッセンジャー (34時間)  
・5・6年生合同オリエンテーション  
「塩浜ふるさと防災科とは」(2)  
・自分たちが住んでいる塩浜地域はどんな地域なのかを考えよう(2)  
・自分たちの目と耳で確かめるために塩浜地域を調査しよう(4)  
・塩浜の過去の災害について知ろう(2)  
・もっと詳しく災害の種類や対策、被害について調べよう(10)  
・「防災」とはなんだろう？(3)  
・川州市でどんな取り組みをしているのだろうか(2)  
・塩浜地域ではどのような対策をしているのか聞いてみよう  
・聞いてお話を振り返そう(2)  
・塩浜ふるさと防災科をしよう(3)  
・私たちにはなにができるか考えよう(4)
- 第2期**  
塩浜とつながる！メッセンジャー (34時間)  
・人と「つながる」ことが防災になるということを知ろう(1)  
・「つながる」ってどういうこと？(1)  
・地域をつなぐみどり10ゆかりの皆さんにお話を聞いてみよう(3)  
・自分たちが地域をつなぐために何ができるだろうか(2)  
・地域とつながるための企画を作ろう(3)  
・企画を実行するためのプロジェクトチームを立ち上げよう(1)  
・クラスのみんまで企画を盛り上げよう(3)  
・企画を実行するために地域の人にもヒアリングをしよう(3)  
・企画を実行するために必要な準備をしよう(5)  
・プロジェクトチームごとに企画を実行しよう(6)  
・チームごとに成果をまとめて共有しよう(5)  
・これまでの学びを振り返ろう(1)

企画書 (塩浜ふるさと防災科)

年に一回地域と学校が連携した防災会議に参加し、「塩浜ふるさと防災科」の学習内容の報告など、学習成果等を地域へ発信してきています(取り組みの様子★参照)。

4 成果

8・9年生が参加するゼミでは、生徒たち自身で避難訓練を計画、実施したり、救命救急の技能を学び伝えたりする活動がみられるようになりました。令和3年度の「なかよし落ち葉ひろい」という活動では、生徒代表が職員会議の場で提案し、企画・運営も担いました。児童生徒主体の学習活動が定着してきています。また、地域の方々と連携して取り組むことで、地域と学校が共に防災への意識を高めていけるようになってきています。今後も地域の力をお借りしながら、「ふるさと」と「防災」を学びながら、「心豊かでたくましく生きる児童生徒」を育てて参ります。

第5学年 塩浜ふるさと防災科学習活動報告書

1. 成果と課題について

- (1) 成果**  
・「つながる」というねらいをもとに活動を考えたり、必要な準備をしたりすることができた。  
・相手に思いやねらいを効果的に伝える手段について検討し、適切な方法を学ぶことができた。また、各教科で学習した方法や学びを生かすこともできた。  
・緊急事態宣言が出た影響もあったが、地域の人材や教材を積極的に活用したことで、子どもたちが必要感や切実感を持って学習に取り組むことができた。  
・今までに経験したことのない経験を多くすることができた。  
・小グループでねらいを達成するために協働的に学習に取り組むことができた。  
・防災への意欲を高めることができた。  
・学習意欲を持って学習活動に取り組むことができるようになった。  
・自分たちの考えを人に伝え、意見交換をし、活動計画を修正しながら進めることができた。
- (2) 課題**  
・全員に課題意識を持たせることができなかった。  
・まだまだ自分たちで課題を見つけ、情報収集をし、そこから整理・分析をしたのち、まとめるという探求のサイクルをすすめることができる段階まで進めなかった。  
・全員の話し合いを誘いかつ効果的に行うことができなかった。  
・一部の意見や考えで進んでしまることが多かった。  
・緊急事態宣言の発令もあり、自分たちが計画した形の活動を行うことができなかった。また、途中で計画変更をしなければならぬ中で、代替え案ができて活動が停滞してしまったり。  
・地域でのイベントを企画する中で、金銭面や材料面でなかなか学校単位での解決が難しいと思われる問題がいくつかあった。  
・活動対象を少し大きく広げたため、教師側が全体を掌握しながら、外部との連絡・調整を行うことが難しい部分があった。もっと対象を小さく絞って活動をしてよかったかもしれない。

報告書 (塩浜ふるさと防災科)